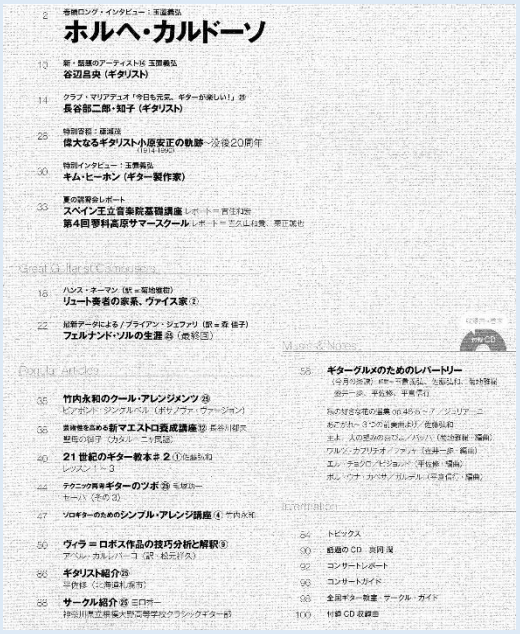
Guitar dream　NO.25 (2010. 11) (後半)の紹介　by yakateru

表紙



メイン目次

【（新）話題のアーティスト紹介　谷辺昌央】

R.アウセルの演奏に感動してドイツへ留学。私が取り組んでいる「ギター協奏曲」探しの旅？に、ヤナ・オブロフスカというチェコの作曲家がギター協奏曲を作っているという情報を提供してくれました。オブロフスカの旦那さんはギタリストのミラン・ゼレンカだそうです。

- クランジャンスの「最後の日の夜明けに」は、人間的な感情と非人間性をバランスよく全体の緊張感を維持することで面白い曲になると思います。また、ヒナステラの「ソナタ」はすごく自分の中にある相性と合う曲です。
- 武満徹の「夢の縁へ」というギター協奏曲を演奏した時、響きが美しく、ギターもちゃんと聴こえて、オーケストラとともに美しい音楽空間を生み出すことを知りました。

【クラブ・マリアデュオのインタビュー：長谷部二郎・知子】

ギタリストのご夫婦です。プロポーズの話、新婚当時の話等ほのぼのとする話が中心で特に書き残すことはなさそうです・・・

【フェルナンド・ソルの生涯　第25回（最終回）】

遂に、この企画も最終回を迎えました。途中ぬけているところはありますが、じっくり通して読み返してみたいと思いますので、その時にでも要約版を掲載します。

【新　マエストロ養成講座　第12回】

今回は、リョーベートの「聖母の御子」を取り上げ解説します。特に、鐘の音を思わせるふくよかな低音の連打が、中核をなすパーツだ解説します。その意識は、私にはありませんでしたので大いに参考にしたいと思います。

【新連載　ヴィラ・ロボス作品の技巧分析と解釈　第9回　カルレバーロ】

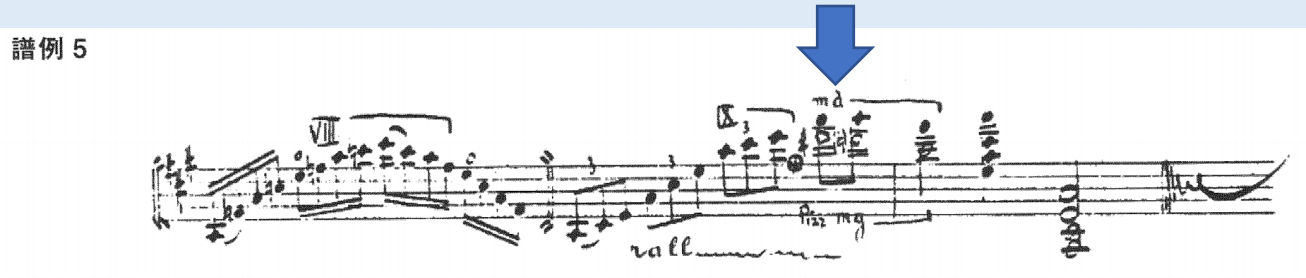
教則本で知っている「カルレバーロ」のヴィラロボス解釈が掲載されている。今回は、練習曲第２番の詳細な解説です。カルレバーロによる第２番の練習曲の目的の話から始まります。

■　この練習曲をはじめるにあたって、まず、運指を決めなければいけない。支障なく軽やかに演奏するためには、運指に対する考え方を明確にしなければいけないからである。

■　スラーについて、雑音を生じさせないために、指を叩きつけることでなく、弦により強い圧力をかけることによって解決させるべきである。これは、指の動きの早さでなく、関節の固定化を用いて指の筋肉全体でつくることが大切である。圧力をかけるとき（弦を叩くときでなく）、４指は手の付け根、そして腕と共同して働かなければいけない。そのことで、スラーはよりクリアーになるはずである。

■　最後の部分について、◇で書かれた音階は、その音程が実音よりわずかに低い音を示しているということである。最初の音は、レ＃に近いが、次の音は、レ♮には聞こえない。最後の音は、ド＃に非常に近い。この二重音がはっきり聞こえるように、ディミヌエンドで曲を終えるべきである。作曲者自身がくれた直筆譜を上げておく（下）。今述べたことがわかるだろう。（ということですが、意味はわかりますが、高度過ぎて・・・・・・）

ここのことです



【その他の注目すべき記事】

■　「21 世紀のギター教本：佐藤弘和」： 12 の練習曲プロジェクト。前回、最終版ということでしたが、今回はさっそくそのパート 2 が始まりました。Lesson 1 として「毎日のウォーミングアップ」で、音階（スケール）、和音、分散和音（アルペジオ）などの基本を掲載しています。

■　「クール・アレンジメント：竹内永和」：今回は、季節柄でしょう「ジングルベル」です。この曲をボサノバ風にアレンジしています。来月は 12 月、持ち曲として使えるかも・・・・

■　「シンプル・アレンジ講座　第 4 回：竹内永和」編曲楽譜でお世話になっている竹内氏のアレンジ講座で、今回はロシア民謡の「黒い瞳」を取り上げています。

■　「ギターのツボ：毛塚功一」：第 25 回も、前回に続きセーハについての解説です。特に、半セーハについて解説します。

■　「特別寄稿　小原安正の軌跡　没後 20 周年：藤瀬茂」日本のクラシックギター界の礎を築いた小原安正氏の貢献について語られます。早稲田のマンドリンクラブでギターを知り、その中で「岩山のなかでダイヤモンドを掘り当てたように、ギターは私にとって素晴らしい出会いであった」と回想します。その後、日本初のギター雑誌「ギタルラ」を創刊。ただ、レコードももちろん CD もない時代で、ただひたすら演奏旅行をすることでギターを広めていったそうです。日本初のギターコンクールを昭和 24 年に開催。課題曲は「ソルのグランドソナタ OP22」だったそうで、後にそのコンクールは「東京国際ギターコンクール」になっていきます。

■　「来日特別インタヴュー：キム・ヒーホン」韓国のギター製作家キム・ヒーホン氏へのインビュー記事です。「トーレスギターは、バランスもいいしきれい。一番いい設計だと思う」と語られます。

その他、「海外レポート」等もあります。第 24 号のメインは、そんなところでしょうか。

また、Guitar dream には、楽譜と模範演奏 CD がついている。今回は、下記の楽曲が掲載されている。

ギターグルメのためのレパートリー

付録CDに
模範演奏が
収録されています。

マウロ・ジュリアーニ

「私の好きな花の選集 op.46」より 5, 6, 7

前号に引き続いて、op.46 より 3 曲。小品ながら、どの曲にもジュリアーニらしさがあふれている。村治佳織が、この曲集から 1st アルバム「エスプレッシーヴォ」に No.4 ジャスミン、No.5 ロスマリン、No.9 ばらの 3 曲を録音している。（玉置義弘）

佐藤弘和

あこがれ～ 3 つの前奏曲より

2010 年 8 月 27 日に開催した「佐藤弘和ギター作品展 vol.5 solo2」で、1999 年に作曲したこの作品を久々に取り上げました。その際のプログラムノートを掲載します。

“この作品は小品 3 曲を集めたわけではなく、続けて演奏する組曲として構想して作曲。委嘱者でありリサイタルで初演してくれた名ギタリスト稲垣稔氏に献呈。情景描写ならぬ心理描写というか心の内にある感情を音楽にしたいと思って上記（※各曲の副題：あこがれ／情熱／夢想）のようなタイトルにした。稲垣氏のためにはこの曲の前年にも「3 つの小品（小組曲）」[ヴァルス、ノクチュルヌ、スケルツォ](1998) を作曲。どうしても名手のために…というと力が入ってしまうのか僕の曲にしては少々難しくなってしまったようで手を煩わせてしまった、という反省も。だからというわけではないが（やっぱりそうだからか）、後年稲垣氏に初めてのお子さんが生まれた際にベイビーズソング「美音（みお）」(2008) をプレゼントした。いかにも美しい音にこだわる稲垣氏らしい名前だ。”

本誌では 1 曲ずつ連載します（佐藤弘和）

J.S. バッハ（菊地雅樹・編曲）

主よ、人の望みの喜びよ

この名曲のギター独奏への編曲はたくさんあります。しかしそのほとんどは、原曲にギターの性能上省略せざるを得ない部分が多くあるためか、物足りない印象がぬぐえません。まれに名手による、満足させてくれる編曲もありますが、それらは演奏困難な難曲に仕上がっていたりします。この編曲ではその点を極力考慮し、弦楽合奏付きの合唱曲のイメージを大切にしました。この編曲のハイライトは後半、内声に出てくる合唱部分のメロディーです。ぜひこの部分を楽しんでいただけたらと思います。（菊地雅樹）

マヌエル・デ・ファリャ（壺井一歩・編曲）

ワルツ - カプリチオ

今回はマヌエル・デ・ファリャの《ワルツ - カプリチオ》です。フラメンコ音楽とフランス近代音楽の絶妙なブレンド具合がこの作曲家の魅力ですが、20 代前半に書かれたこの《ワルツ - カプリチオ》においてはフラメンコからの影響はあまり感じられません。どちらかというと、サロン音楽的な軽やかなスタイルで音楽は綴られています。

同じフレーズが 2 回繰り返される際、2 回目の和声がわずかに異なっているところなどに細かな表情を読み取れるとよいでしょう。（壺井一歩）

アンヘル・ビジョルド（平佐 修・編曲）

エル・チョクロ

アルゼンチン・タンゴの不朽の名作…などと言う必要もないくらい有名な曲で、ローラン・ディアンスのギターソロ編曲を弾いたことのある人も少なくないと思います。

この 3 重奏編曲のもとになったのは、アストル・ピアソラのネット流出楽譜の中にあったヴァイオリン、バンドネオン、ピアノ、コントラバスの 4 重奏版です。編曲者は N. Vogel となっていますが、明らかにピアソラが演奏したと思われる音型があちこちにあります。

ギタートリオの前に、ギター 4 重奏とマンドリン 5 重奏にアレンジしたのですが、だ～れも弾いてくれませんでした。そこで、トリオに焼き直して「自分で弾こう」と思ったのですが、よほどしっかりとした練習をしておかないと、「感想、『二度と弾きたくない』」という結果になりやすい曲です。…私の感想？「モ～弾かない！」

どのパートにも主声部を受け持つフレーズがあり、3 パートとも同じくらいの技術が必要になりますが、結果はどうであれ、弾いていて気持ちの良い曲です。（平佐 修）

カルロス・ガルデル（平倉信行・編曲）

ポル・ウナ・カベサ

アルゼンチンの国民的大歌手であったカルロス・ガルデルの名曲です。タイトルの「ポル・ウナ・カベサ」は「首の差で」という意味で、競馬などの着順でほんのわずかな差というような時の言葉。「差はほんのわずかだが、恋や人生においては雲泥の差になってしまう」ということを歌ったものです。

Ⓐはイントロですが、切れの良いリズムでスパッと入ってください。Ⓑから本編のメロディーに入りますが、ハモリの美しさを十分に生かし、メロディーを歌ってください。1st の伴奏は人差し指の上下をすばやく歯切れ良く。Pizz. で弾くベースは音の表情をつけて弾けるように、あまり音を殺しすぎないようにします。Ⓒからのサビはタンゴの力強さを思い切り出して弾きます。リズムが魅力の 1 つであるタンゴ、4th の伴奏が重要な役割を担っています。Ⓕからは低音のメロディーになります。1st から 3rd は音量のバランスに気をつけ、4th のメロディーは浮き立って聞こえるように注意してください。（平倉信行）